

最先端テクノロジーを学ぶ理系学生の留学を 官民協働で支援する理由

船橋 力

文部科学省

激動のグローバル時代を生きる学生こそ日本の常識が通じない世界に飛び込むべき

ご存知の通り、IoTや人工知能の技術革新による急速な産業の変化により、将来を見通すことが困難な「正解のない時代」に突入したといわれています。一般社会の多くの業務がAIに代替され得る時代において、情報処理分野の研究者を目指す学生には、社会を適切にリードする人材として活躍することが求められています。かつてと比べれば、日本でも世界トップクラスの教育が受けられ、海外の最新の情報もオンラインで入手できるようになりましたが、学生時代の海外経験が重要であることは依然として変わりません。自動翻訳が発達して語学力は不要になるとも言われますが、そのような時代であるからこそ、文化的背景や細かいニュアンスを捉えたコミュニケーションが可能な研究者が重宝されることも確かでしょう。

私たちが、1カ月の短期でもいいから学生が海外に飛び込み、日本での常識が通用しないアウェイな環境で学ぶことを支援するのは、最先端の専門知識や語学の習得のためだけではありません。考え方や感受性の柔らかいうちに、多様なバックグラウンドの人々とも臆せずに議論し、信頼関係や友情を結べる機会を得てほしいからです。そのために、理系分野の最先端技術のみならず、哲学、倫理学、社会学、心理学等の教養(リベラルアーツ)も学ぶことに大きな意味があります。現在、最先端のレベルを誇る研究室が5年後もその地位にいるかどうか分かりません。激動の変革時代においては、イノベーションを起こすため、そして複雑な社会問題を解決するため、国境や専門分野を超えた人同士の知恵のぶつかり合いやコラボレーションこそが

研究においても差を生み、世界で活躍する研究者になり得るのではないのでしょうか。

日本人の留学数は2004年から3割減！ 短期も含め大学生等の留学は全体の3%

それでは、前述のような世界で戦えるグローバル人材育成の状況はどうなのでしょう。社会人を含む日本人の高等教育機関への留学者数は2004年の約8万3,000人をピークに減少し、2014年には約5万3,000人と最盛期から3割の減少傾向となりました(OECD調べ)。近隣諸外国の海外留学数が軒並み増加傾向にあるのに対し、日本は遅れをとっている状況です。短期留学も含めれば大学生の留学数は伸びているものの、学生人口全体から見ると3%程度と十分とはいえません。

こうした現状を踏まえ、文部科学省は官民協働でグローバル人材を育成する「トビタテ!留学JAPAN」キャンペーンを発足しました。2013年6月に閣議決定された「第2期教育振興基本計画」において、2020年までに日本人の海外留学者数を倍増(大学生等:6万人から12万人、高校生:3万人から6万人)させることが掲げられました。



図-1 派遣留学生壮行会の集合写真

-【解説】最先端テクノロジーを学ぶ理系学生の留学を官民協働で支援する理由-

語学力、成績不問、学校に行かない留学も対象 返済不要の留学奨学金を年間 1,500 人に！

本キャンペーンの中心となる施策が、2014 年からスタートした「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」です。国費を使わず、民間寄附金を 100% 原資とした返済不要の留学奨学金制度で、2020 年までに 1 万人の大学生・高校生等の支援を目標に掲げています。多様な専門家、リーダー候補を育成し、彼らが支援企業、大学等と連携して作る日本最大のコミュニティを持って、グローバル化をけん引することを目指しています。

審査は「人物」と「計画」の 2 つの観点から、書面と面接を通じて審査します。成績や語学力等については、一律の基準を設けず、各自の留学計画の実現に必要なレベルがあるかどうかのみを審査します。

すでに 4,400 名もの人材が選抜され、渡航先は 100 カ国以上（北米 3 割、欧州 4 割、アジア 2 割、その他 1 割）に広がります。帰国した生徒、学生は成果を発揮し始めており、寄附企業からは「トビタテは人材育成にとどまらず、SDGs（持続可能な開発目標）といった地球規模の課題解決プロジェクトだ」との評価を得ています。毎年、大学生、大学院生等を 1,000 名募集（うち 440 名は理系・複合融合系人材）していき、2020 年まで継続予定です。

最先端を学びたい学生に優先枠を新設 注目の「未来テクノロジー人材枠」とは

さらに 2017 年度からは、「未来テクノロジー人材枠」という枠（以下、同枠）を新設し、最先端テクノロジーを海外で学ぶことを手厚く支援し始めました。狙いは、人工知能、ビッグデータ、IoT、サイバーセキュリティ、ロボティクスおよびそれらの基盤となるデータサイエンスといった、日本の未来を切り開く 6 つのテクノロジー分野に対して強い興味を持ち、日本をリードする人材を育てることです。上記 6 分野を大学等で専門としている、またはすでに何らかの実績（研究実績、受賞歴等）、スキル（プログラミングスキル等）を持つ学生が、さらに専門性・国際性を高めることを期待しています。

奨学金の対象となる留学として、座学の学修だけ

でなく、インターンシップ、フィールドワーク、実験・実習等の実践活動がすべて対象となります（例：海外大学での研究と並行して現地でフィールドワークを行う、大学で数カ月研究した後、拠点を移して関連する商品やサービスを持つ企業でインターンシップを行うなど）。なお、応募時に「推薦状」（1 通）の提出を必須とします。

審査の担当者として、支援企業の人事経験者に加えて、専門性を評価するためにエンジニアや研究者を想定しています。

世界で戦える最先端テクノロジー人材を増やしたいという産業界の悲願から生まれた同枠ですが、まだあまり認知が広がっていないのが現状です。筆者としては、今後、同枠の認知が拡大していくことを祈っています。

プロジェクトの将来に向けて

以上、留学の意義に加え、「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」と「未来テクノロジー人材枠」について説明しましたが、留学を促進する上で大学関係者の皆様のご協力は不可欠です。プロジェクトメンバー同は、今後より一層の取り組みの波及効果拡大を目指しています。その結果として、プロジェクトへの支援および学生からの積極的な応募が拡大することが今後の課題です。

（2018 年 1 月 4 日受付）

船橋 力 ryugakujapan@mext.go.jp

1994 年、上智大学卒業後、伊藤忠商事（株）に入社。2000 年、（株）ウィル・シードを設立し、企業と学校向けの体験型教育事業を手がけた。2009 年には世界経済フォーラムのヤング・グローバル・リーダーに選出。2013 年から現職。

参考情報

- ★ トビタテ！留学 JAPAN 公式 Web サイト、<http://tobitate.mext.go.jp/>（最新情報を公式 Facebook, Twitter, メールニュース等で発信しています）。
- ★ トビタテが運営する 500 名以上の留学体験談を自由なキーワードで検索できる「留学大図鑑」では具体的な留学企画や、後輩へのアドバイス等を無料でご覧いただけます。
<https://tobitate.jasso.go.jp/zukan/>
- ★ お問合せ先：文部科学省 官民協働海外留学創出プロジェクト ryugakujapan@mext.go.jp

